

高階地区防犯委員会（石川県）



皆さんこんにちは。石川県七尾市高階地区防犯委員会事務局を担当しています、平野謙次と申します。今日はこのような席で私どもの発表ができますことを、大変うれしく思っております。よろしくお願いいたします。

私たちが活動しています高階地区について御紹介させていただきます。七尾市の南西に位置していて、9町から構成されています。

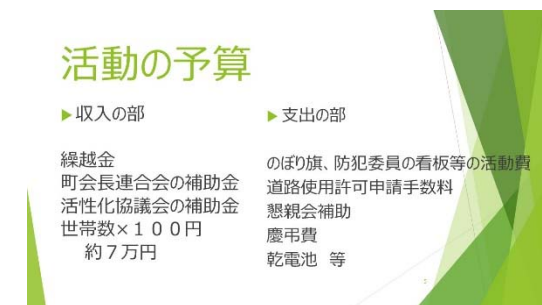
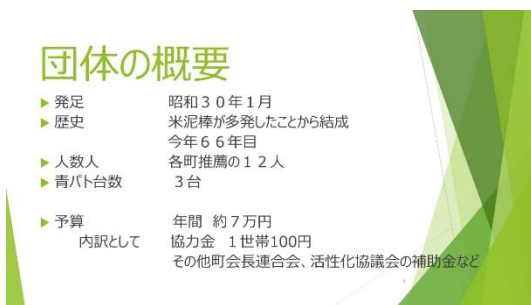


人口は2年前に1,000名を切って、現在950名。約380世帯。山や田んぼ、民家がまばらにあり、一言で言いますと田舎、格好良く言いますと自然がいっぱいの高齢者の多い農村地帯です。



春になりますと、田んぼでは一面菜の花が咲き黄色い絨毯になります。本当に綺麗です。見頃が終わりますと、この菜の花をトラクターですき込んで、有機肥料として菜の花米を作っています。川にはスッポン、ナマズ、フナ、シジミなどが生息しています。山にはイノシシ、シカ、タヌキ、キツネ、イタチ、ウサギなどがいます。数年前にはクマを見たということで大騒ぎになりました。

さながら能登版サファリパークといったところではないでしょうか。



次に我々の団体の概要を説明します。私たち防犯委員の歴史は古く、昭和29年、地区一帯に米泥棒が多発し、その対策として昭和30年1月に発足しました。委員は町会から推薦された12名で構成されています。皆さんから「そんな小さい田舎に犯罪があるんですか？」と質問が飛んできそうな気がするんですけども、その通り小さな事故などはありますが、犯罪はゼロです。私たちがパトロールをしているから犯罪が無いんです、と思いながらパトロールをしています。

のぼり旗と看板



活動の予算は、町会連合会などの補助金と1世帯100円の協力金をいただき、約70,000円で行っています。予算の使い道としては、この写真にあるように「ちゃんと鍵かけんかいね」や、「防犯パトロール実施中」とプリントしたのぼり旗を作り、町内やバス停などに掲げ、注意喚起を行っています。

また、地区の住民が困り事で相談があるのではないかと思います、この看板を作り、各委員の自宅に掲げています。その他にはカーブミラーの清掃に必要なものや、道路の使用許可申請手数料、乾電池、送迎の補助費などです。パトロールのガソリン代は個人負担となっています。

活動内容

— 毎月の活動 —

- ▶ 青パト パトロール 15~20回
- ▶ 全員パトロール(相馬駐在所パトカー先導) 2回
- ▶ 早朝パトロール 4~5回
- ▶ 2人組パトロール 6回
- ▶ 子ども見守りパトロール(町内巡回) 3回
- ▶ 交通安全指導(朝のあいさつ運動等) 2回



それでは私達がやっている活動をお話しします。私たちは七尾警察署管内で、最も早く青パトを導入しました。現在3台あります。パトロールは月初めに各委員に配布した当番表に従い、夜9時頃から月に約20回実施しています。そのうちの2回は全員パトロールで、受け持ちの駐在所のパトカーに先頭してもらい、一緒に活動しております。

早朝パトロール



毎週日曜日には、夏ならば朝4時半から5時頃、冬なら朝6時半から7時頃、日が昇ってから早朝パトロールを実施しています。早朝パトロールは、夜間パトロールには無い、色々なことに出くわします。台風やゲリラ豪雨のときは、この写真のようにあちこちで木が倒れたり、また雪の朝は、竹に雪が積もり垂れ下がって、道を塞ぐことがあります。それを片付けるのも、私たちパトロールの仕事で、危険な仕事なので、慎重に行っています。

また、春先や秋の収穫後には、田んぼで野焼きをしている人がいるので、このように道路に煙が流れ、運転している人が前が見えにくくなったりします。火を消すようお願いをしたり「水は用意してありますか?」「火事にならないよう気をつけてください」と、注意喚起したりします。また先ほど言ったような色々な動物たちが、交通事故に遭っています。そんな時は、それを棒でそっと道端に寄せて、あとで市役所に連絡します。早朝パトロールは、夜には考えられないことがあり、これも大事なパトロールとなっています。

また、子供の見守り活動にも力を入れています。私たちの地域にあった高階小学校が、平成30年に閉校となり、135年の歴史に幕を閉じました。現在、子供たちは隣の地域にある小学校へ、スクールバスで通学をしていますが、この写真のように朝、バス停や通学路でパトロールしながら、子供たちに「おはよう」「気をつけて行けよ」などの声かけをしています。

早朝パトロール



子ども見守り活動



一戸一灯運動



次は、一戸一灯運動と企業商店のパトロールです。一戸一灯運動は、約15年前からやっています。このように各家庭で玄関に貼ってもらっています。毎年8月の帰省客が多くなるお盆の夕方に、駐在所のパトカーのスピーカーを利用して、一晩中玄関灯をつける一戸一灯運動や、「家、自転車、車などに鍵を掛けてください」また「振り込め詐欺に注意してください」などと呼びかける広報活動をしています。一戸一灯運動は、省エネの問題もあり、点灯率は低くなったように思ったのですが、多くの家庭でセンサーライトを付け、防犯意識の高さを知ることができます。

年末企業パトロール



カーブミラー清掃



年末には、地域内に40軒ほどある事業所、商店などを訪問し、「事務所荒らしに注意してください」「金庫には現金を置かないでください」「建物の周りには、足場になるようなものは置かないでください」と、呼びかけをしています。

また、春秋の全国交通安全運動前には、この写真のように、地域にあるカーブミラーの清掃、点検を行っています。やり始めた頃は、鏡が木の枝で隠れていたり、鏡が凹んでいたり、また鏡に青カビが生えていたりしましたが、年に2回実施することで、今ではそれほど時間もかからず綺麗になり、安全も確保できています。

カーブミラーの点検表



カーブミラーは、このように1本にミラーが2、3枚ついていたり、注意という看板がついていたり、色々な形のものがありますので、この独自の表を使って点検を行っております。カーブミラーの設置場所やカーブミラー全体を通して、良否や気がついた事など、コメントを書き込んでいます。地域内の60基全てのカーブミラーを清掃しています。また支柱がぐらぐらしていたり、破損しているものは、場所と状態を調べて報告し、修理及び新品に換えてもらっています。

毎年1月には、この写真のように「年初めパトロール出発式」と七尾警察署主体の110番の日の広報を、近隣の駐在所と協議会会員とともに参加しています。余談ですが、これは石川県警のマスコットキャラクターのいぬわし君です。

パトロール出発式と110番の日の広報



空き家の調査



空き家の調査



空き家の調査 調査票

| | |
|--|-----------------------------|
| 調査票の表紙 | 調査票の裏紙 |
| 調査票の表紙には、調査対象の住所、調査日時、調査員の名前などが記載されています。 | 調査票の裏紙には、調査結果の記入欄が用意されています。 |

そして私たちが活動で特に力を入れているのが、平成18年から今年までの14年間続けています、空き家の点検調査です。皆さんに一番お話ししたいところです。

平成18年に県外の空き店舗で女子中学生が他殺体となって発見された事件があり、防犯活動の1つとして始めました。この家は鍵がかかっているかな、瓦が落ちそうだな、等を調査しています。空き家の調査は、独自に作成した調査票をもとに、家の周りの草木が危なくないか、郵便物がたまっていないか、鍵がかかっているか、電気ガス水道の状況は、不法侵入者、たき火の形跡はないか、空き家の持ち主は誰か等、細かく調査しています。私たちの調査では、A非常によく管理されている。B管理されている。C管理されていない。つまり、ほったらかし。Dは危険。とこの4段階で区別しています。Dの危険と評価された場合は、持ち主、行政に報告し、相談することになっています。

住める家を空き家バンクに登録する



空き家の調査

調査の視点

「危険な場所がないか」

「この家に人は住めるか」



高階地区は、先ほどもお話ししたとおり、高齢化が非常に進んでおり、空き家は年々増え続け、調査を始めた平成18年は20軒ほどでしたが、今年10月11日の調査では、90軒になっておりました。皆さん、空き家の有効利用は何だと思えますか。高階地区では、平成27年から「この空き家に良い人がいれば住んでもらうのが一番。空き家に住んでもらうことが地域の安全につながるのではないか」という発想のもと、移住者を受け入れる取組を始めました。そこに平成18年から調査しているデータが活用されることになりました。調査票の中から住めそうな家をピックアップし、持ち主と話し合いをし、空き家バンクに登録しました。昨年までの5年間で15組22名の移住者を受け入れました。高階地区は海にも山にも買い物にも10分ほどで行けます。インターネットは光回線もありますし、移住を考えている人はぜひ見に来てください。

調査を始めた頃は、防犯防災の視点でしたが、今では危険な場所がないか、この家は移住者が住めるか、双方の視点から調査をしています。防犯委員だけでなく、町会長などにも協力してもらい、高階地区あげでの調査になっています。この写真はその出発式の様子です。「気を付け」「礼」。けがや事故に遭わないように、気合いを入れて出発進行しているところです。パトロールに出発する時には、必ずこのようなことをしております。

空き家の調査を何年も続け、積み重ねたデータがまさか移住のために活用されるとは思ってもみなかったことです。地域の役に立つということは、やりがいにもつながり、これからも長く続けていきたいなと思っています。

防犯は、レジャーだ



課題

▶ 会の活性化のために

- ① 多様な人材の確保
- ② 経験の引継ぎ

私たちの防犯活動に一番大切なことは、委員同士のコミュニケーションを図るための懇親会という飲み会です。ここには「防犯はレジャーだ」なんて書いてありますけども、防犯活動をやった日の夜は、年に数回開催しています。これが防犯活動をいきいきと長続きさせる秘訣ではないかと思っています。

今後の課題についてですが、会の活性化ということを考えたときに、やはり幅広い世代や女性ならではの意見が必要で、さらにそれらの人に経験を引き継いでいくことが重要になってくると思います。

課題の解決

- ▶ 現役世代、女性委員選出の働きかけ
- ▶ 他の防犯団体との交流

防犯の輪を広げよう！



高階地区防犯委員会

課題の解決方法については、先ほどお話をしたとおり、委員は町会から推薦されるので、町会長さんには若い人や女性を積極的に推薦してほしいと、働き掛けをすることにしています。また、多くの経験を学ぶという観点から、市外の防犯団体との交流なども行ってみたいです。今日来ていらっしゃる団体の方で交流をしてもいいよという方は、言っていただければありがたいです。

会としては、コロナが収束したら、七尾警察署や防犯協会と相談し、交流ができる団体を探してもらうのもありかなと思っています。私たちが実施している活動は、七尾警察署や防犯協会と連携し、事故やけがなどないように安全に配慮しています。活動の様子は毎回地元の新聞に掲載されます。そのことにより、高階地区は防犯活動が盛んで、何か悪いことをしようとする人は「ここはやめとこ」と思いとどまらせることができたり、また他の防犯団体の目に留まり、自分たちもやってみようと思ってもらえれば、七尾、能登、石川と順々に安全になっていくのではないかなと

思っているところです。



私たちの発表は以上になりますが、せっかくの機会ですので、七尾のお祭りを1つ紹介して終わりたいと思います。七尾には5月のゴールデンウィークに、青柏祭という祭りが 있습니다。通称「デカ山」と呼ばれ、高さ12メートル、重さ20トン、車輪の高さが2メートル、日本一の迫力を誇ります。ユネスコ無形文化遺産にもなっています。コロナが収束したら、ぜひ皆さん一度足を運んでください。御静聴ありがとうございました。

質疑応答

山本 北陸大学の山本でございます。皆様どうぞよろしくお願ひいたします。高階地区の皆様、発表ありがとうございました。非常に活発な、そして継続的で組織的にちゃんと体制が整っているという前提で、色々なことがやれていて、そこに空き家の問題に対して取り組まれているのが、とても印象的でした。というのも、防犯はマイナスをゼロにしていくことなんですけれども、やっぱりそれだけだと、どうしても広がりがなく、プラスをもっと増やしていくという活動とセットでないとならば長続きしていかないと思っています。その点で、空き家の調査をし、さらにそれを、移住を誘致することにつなげている。つまり人口を増やしていくという、人口減少に対してのアプローチが防犯活動とセットになってやっておられる。非常に素晴らしいことだと思いました。

色々なことをやっていて、結構お忙しいと思うんです。この中でやっぱりこれはもういいやとか、これはやめておこうというものを、むしろ今はこれにシフトしていこうといったような、優先順位について現在何か変化してきたものはございますか。そこについてまずお伺いをさせていただきます。

平野 皆、やる気がある者も多く、みんな生き生きしています。どれもこれも取り組んでいるんですけども、先ほど言った通り、女性の会員の参加や、平均年齢が65歳ぐらいになるので、もっとこれを落としていきたいなという思いがあります。

山本 現時点で平均年齢が65歳というと、結構若い団体だと思いますね。もう平均年齢が70を超えている所も結構あると思うので、割と若いんじゃないかなと思います。他の団体というふうにおっしゃっていますけれども、例えば美化活動とか、子供たちの見守り活動とか、移住促進の活動の中で、高階地区で連携されている他の団体や施設、組織は、どんなものがありますでしょうか。

平野 活性化協議会という1つの組織があるんですけども、そこに公民館も入っていて、その活性化協議会の一部として防犯の団体があります。うちは防犯としてそこに属しております。

山本 公民館とはどんな感じで連携されていらっしゃいますか。

平野 公民館は今はコミュニティーセンターという名前が変わったんですけど、本当に地域に根ざしている団体で、サークル団体もたくさんありますし、皆さんそこは1つのうちの有意義な場所か

などと思って、つつい集まりやすいということで、何かあったら会合を持っています。

山本 割と公民館って、女性を集める。女性のための強い中心だったりしますよね。

平野 そうですね。

山本 だから防犯ボランティアは割と男性の方が多いので、公民館とセットで何か一緒にやることによって、女性の防犯ボランティアの参加というのも増えてくるんじゃないかなと思うんですけど、その点はいかがですか。

平野 高階は太鼓がすごく有名で、太鼓の大会も何回かあるんですけども。その駐車場の係とか、防犯の巡回とかも一応任されているんです。そこら辺の連携はすごくいいです。

山本 多分、石川県というのは、公民館がかなり強いというか、独特の存在感を持っています。ぜひ防犯ボランティア団体の方々が、公民館と連携をして色々なことをやる。公民館の方々に何か防犯体制を提案していくというというのが、あってもいいのかと、私は個人的に思っています。あとは、移住してきた人たちが、どう地域のコミュニティーと一緒にやっていくかということで、その辺何か防犯活動への誘いとか公民館の取組とか、そういったことはありますでしょうか。

平野 やっぱり入ってきても、地域の人と合わなかったりして、また出て行ってしまうこともよく聞きますが、うちは移住者と地域で色々なことに取り組んでいるので、なかなか出て行かないというか、そこに住んでもらっているところなんです。それがすごくコミュニティーにはいいです。26歳のときから来た人もいますし、東京、大阪から来て、皆さん楽しんでます。

山本 空き家問題の1つの解決方法かなと思うんですよね。しかもそれが防犯と一緒にやっていくということは、やっぱり安全は移住の1つの条件ですもんね。そういう意味で安全が担保されているということが、空き家問題だけじゃなくて、とても大切なことだと私は思いました。

先ほどの年間の予算ですけども、補助金と町内会費からということですね。だから、独自予算を持ってらっしゃるということですね。独自予算を持っているということは、大事なことだと思います。その予算は十分ではないので、もっと必要だと思われていますか。

平野 パトロールのガソリン代を払えば、もちろんマイナスなんですけど、皆さんそのガソリン代も要らないよということで、ボランティアでしていますので、今のところは何とかそのお金でマイナスを補っています。

山本 そうですね。次にパトロールのことですが、どんなことに気を配ってパトロールをされていますか。あるいは子供の見守り活動もそうですね、どういうことをポイントとされていますでしょうか。

平野 介護施設が3つほどあるんですけども、そこも毎回、回っています。青パトでは月に15回か20回、回っています。そして駐在所のパトカーも出てもらって月に2回、早朝パトロールは日曜日ごとに出ています。あと2人組パトロールというのは、会員1人では危ないので2人で青パトに乗って回っています。子供見守り隊は、バスに乗る時間帯に合わせて回っています。交通安全指導というのは、高階は田舎と言ったんですが、七尾の中では金沢に近いということで、そこに大きな道路があるんですけども、その交差点で、一応パトカーのライトを回しながら、青パトも回しながら、交通安全指導しております。というような感じで、月でやっているわけなんですけど、一応この中で、全て入ってくるかなと思っておるんですけども。

山本 防犯上、最近何か気になったことはございますか。

平野 先ほど言ったとおり、犯罪はゼロですので、駐在所から今月の犯罪状況や交通事故の状況を

毎回説明してもらっているんですけど、「ゼロです。何もありません」ということです。別にあんまり気にならんですけど、同じことかなと思っています。

山本 分かりました。非常に未来志向といいますか、町が活性化していく活動と、セットになっている活動を編み出されたということで、非常に素晴らしい実践事例を御報告いただいたなと思いました。どうもありがとうございました。